

くらしにやさしい街 … 志木、よりよい環境を未来に残すために

# エコシティ志木通信

3月1日号 (No. 61・春一番も吹いて…号)

2011  
\*  
3月

NPO法人エコシティ志木

代表理事 天田 眞

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

<http://kappa-no.net/>



写真：天田 眞

メダカの群れを  
また見てみたいなあ



勝手にレッドデータ of 志木 (47)

## メダカ

メダカは絶滅危惧Ⅱ類（絶滅の危険が増大している種）に指定されていますが、志木ではほとんど見られません。柳瀬川の魚類調査や総合学習等で年に20数回も魚捕りをしています。水際に草が生えている場所で年に数匹捕まるだけで、よく似ていて間違われやすい外来種のカダヤシやグッピーの方がよく捕まります。本当はもっと流れの緩やかな小川や田んぼの水路、池沼等の水生植物が繁茂しているところが生育に適しているのですが、そのような場所は志木には無くなってしまいました。

(天田 眞)

1/9  
(日)

## 県内一斉ガンカモ調査

(財団法人埼玉県生態系保護協会主催)

毎年恒例の埼玉県生態系保護協会主催「県内一斉ガンカモ調査」が行われ、参加した同協会志木支部に調査協力をしました。

当日の気温は6℃で、空気は冷たかったものの快晴で比較的穏やかな調査日になりました。志木大橋から市役所の先の新河岸川との合流地点まで約2kmを参加者10名で歩いてカモの種類と数を数えました。

県内全体のカモは、17種33,148羽で、昨年16種37,152羽からは、1種類増、4,004羽減でした。今年は関東近辺ではカモが例年に比べ著しく少ないという話を耳にしますが、原因ははっきりしません。

柳瀬川では、カモは4種262羽で、昨年より1種類増え、数は122羽増加しました。

内訳は次のとおりです。( )は昨年

|       |           |
|-------|-----------|
| ヒドリガモ | 92羽 (56羽) |
| オナガガモ | 36羽 (0羽)  |
| コガモ   | 92羽 (45羽) |
| カルガモ  | 42羽 (39羽) |

栄橋の下にオナガガモが29羽かたまっていました。オナガガモは人が与える餌を喜んで食べる性質があり、橋の上からパン屑などが投げ込まれるのを待っています。人間の食べ物は栄養価が高く、カモが食べると肥満になってシベリアまで帰る持久力や体力が無くなります。加えてシベリアでは簡単に捕まって食料にされてしまい、餌やりはカモのためになりません。鳥インフルエンザも懸念されますので、野鳥に餌を与えたり、不必要な接触をしないように注意をしましょう。

(山崎光久)



2/5  
(土)

こどもとおとなの自然塾

## 冬の渡り鳥を見てみよう



当日は快晴無風の好天気で、絶好の観察日となりました。参加者はおとなのみの19名で残念ながらこどもさんの参加はありませんでした。

サミット裏でカモ類のヒドリガモ、コガモ、カルガモ、セキレイ類ではキセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、タヒバリ等を観察しました。その後、今年はコースを少し変えて、富士見橋を渡って柳瀬川の左岸側を歩きました。

水谷たんぼで1月21日に火事があり、枯草が

大きな面積で焼けましたが、そこにツグミ、カラヒワ、キジバトなどが集まって餌を啄ばんでおり、近くから観察することが出来ました。焼け跡にはホンドイタチも姿を見せ、珍しさに皆声を上げていました。

旧ワイス裏では川の飛ぶ翡翠と言われるカワセミも観察されました。

ワイス跡地にはホームセンターとスーパーマーケットが2月にオープンし、隣接している柳瀬川の環境も今までとは大分異なったものとなり、野鳥の生息に影響がなければと心配されます。

当日は全部で29種類の野鳥が見られ、参加者全員満足のうちに終えることが出来ました。

(山崎光久)

# 2010年 柳瀬川ウォッチング(野鳥調査)の記録

2010年は12回の調査で47種類の野鳥を確認しました。

カモ類では、カルガモが最も多く年間で311羽、次いでコガモが196羽、ヒドリガモ156羽でした。(毛利)

## ●調査方法

- 1) 毎月第3日曜日、午前9時～12時に実施(悪天候の場合は中止)
- 2) 一定の速度で歩きながら半径50mの範囲を目安に出現した野鳥の種名と数を記録。
- 3) コース  
志木中学校前 → 高橋 → 栄橋 → 旧柳瀬川 → 高橋 → 柳瀬川旧堤防  
→ 水谷田んぼ → 富士見橋 → 志木中学校前

※ 本調査は 1997年6月より行っています。

\* 主催=NPO法人エコシティ志木／(財)埼玉県生態系保護協会志木支部

\* 記録=山崎光久

| 鳥 名        | 1月  | 2月  | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月  | 9月  | 10月 | 11月 | 12月 |
|------------|-----|-----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 1 カイツブリ    | 2   | 1   | 0  | 1  | 0  | 0  | 0  | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   |
| 2 カワウ      | 3   | 3   | 8  | 2  | 3  | 1  | 0  | 1   | 5   | 0   | 3   | 1   |
| 3 アオサギ     | 5   | 1   | 0  | 1  | 2  | 3  | 1  | 2   | 2   | 1   | 5   | 3   |
| 4 ダイサギ     | 2   | 0   | 1  | 0  | 0  | 0  | 1  | 1   | 3   | 1   | 2   | 0   |
| 5 チウサギ     | 0   | 0   | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0   | 0   | 1   | 0   | 0   |
| 6 コサギ      | 11  | 1   | 7  | 2  | 1  | 0  | 3  | 4   | 3   | 2   | 0   | 2   |
| 7 マガモ      | 0   | 2   | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   |
| 8 カルガモ     | 34  | 17  | 46 | 25 | 10 | 44 | 42 | 6   | 27  | 14  | 27  | 19  |
| 9 コガモ      | 34  | 26  | 38 | 22 | 0  | 0  | 0  | 0   | 2   | 13  | 27  | 34  |
| 10 ヒドリガモ   | 31  | 57  | 34 | 4  | 0  | 0  | 0  | 0   | 0   | 0   | 5   | 25  |
| 11 オナガガモ   | 3   | 1   | 5  | 0  | 2  | 0  | 0  | 0   | 0   | 0   | 1   | 9   |
| 12 ハシビロガモ  | 0   | 0   | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0   | 0   | 0   | 0   | 1   |
| 13 オオタカ    | 1   | 0   | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   |
| 14 チョウゲンボウ | 0   | 2   | 1  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   |
| 15 キジ      | 0   | 0   | 1  | 1  | 2  | 1  | 0  | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   |
| 16 コチドリ    | 0   | 0   | 8  | 5  | 5  | 4  | 0  | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   |
| 17 イカルチドリ  | 16  | 9   | 5  | 2  | 1  | 3  | 13 | 5   | 8   | 18  | 34  | 32  |
| 18 イソシギ    | 8   | 3   | 1  | 3  | 2  | 0  | 2  | 7   | 2   | 5   | 5   | 9   |
| 19 タシギ     | 1   | 0   | 4  | 1  | 0  | 0  | 0  | 0   | 1   | 4   | 0   | 0   |
| 20 セグロカモメ  | 0   | 1   | 3  | 2  | 0  | 0  | 0  | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   |
| 21 キジバト    | 31  | 4   | 7  | 9  | 5  | 13 | 5  | 4   | 9   | 2   | 1   | 21  |
| 22 カワセミ    | 2   | 0   | 1  | 3  | 1  | 0  | 2  | 0   | 0   | 0   | 1   | 0   |
| 23 コゲラ     | 0   | 0   | 0  | 0  | 1  | 0  | 0  | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   |
| 24 ヒバリ     | 0   | 7   | 4  | 7  | 2  | 2  | 0  | 0   | 0   | 2   | 0   | 5   |
| 25 ツバメ     | 0   | 0   | 0  | 12 | 13 | 16 | 17 | 27  | 9   | 0   | 0   | 0   |
| 26 キセキレイ   | 6   | 4   | 1  | 1  | 0  | 0  | 0  | 0   | 0   | 0   | 3   | 4   |
| 27 ハクセキレイ  | 21  | 17  | 15 | 0  | 3  | 1  | 1  | 0   | 3   | 14  | 23  | 14  |
| 28 セグロセキレイ | 6   | 3   | 1  | 0  | 0  | 0  | 0  | 1   | 0   | 1   | 4   | 7   |
| 29 タヒバリ    | 15  | 16  | 5  | 2  | 0  | 0  | 0  | 0   | 0   | 0   | 5   | 9   |
| 30 ヒヨドリ    | 13  | 2   | 10 | 61 | 0  | 6  | 4  | 0   | 0   | 69  | 23  | 28  |
| 31 モズ      | 2   | 1   | 2  | 2  | 0  | 0  | 0  | 0   | 0   | 4   | 1   | 1   |
| 32 ジョウビタキ  | 5   | 3   | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0   | 0   | 0   | 2   | 0   |
| 33 ツグミ     | 18  | 11  | 13 | 4  | 0  | 0  | 0  | 0   | 0   | 0   | 0   | 16  |
| 34 ウグイス    | 1   | 0   | 0  | 0  | 0  | 1  | 0  | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   |
| 35 オオヨシキリ  | 0   | 0   | 0  | 0  | 11 | 10 | 4  | 1   | 0   | 0   | 0   | 0   |
| 36 セッカ     | 0   | 0   | 0  | 2  | 1  | 4  | 1  | 3   | 1   | 0   | 0   | 0   |
| 37 シジュウカラ  | 0   | 1   | 0  | 4  | 0  | 2  | 0  | 0   | 0   | 0   | 2   | 2   |
| 38 メジロ     | 2   | 0   | 0  | 1  | 0  | 0  | 0  | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   |
| 39 ホオジロ    | 4   | 2   | 2  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   |
| 40 カシラダカ   | 2   | 10  | 13 | 1  | 0  | 0  | 0  | 0   | 0   | 0   | 3   | 4   |
| 41 アオジ     | 2   | 0   | 1  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   |
| 42 カワラヒワ   | 19  | 7   | 17 | 10 | 17 | 9  | 7  | 0   | 5   | 7   | 14  | 77  |
| 43 スズメ     | 161 | 159 | 56 | 37 | 44 | 82 | 63 | 103 | 192 | 91  | 91  | 153 |
| 44 ムクドリ    | 70  | 12  | 46 | 18 | 26 | 74 | 7  | 32  | 29  | 2   | 0   | 66  |
| 45 オナガ     | 0   | 0   | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 11  | 0   | 0   | 7   | 0   |
| 46 ハシボソガラス | 0   | 4   | 7  | 4  | 2  | 13 | 0  | 0   | 7   | 0   | 0   | 26  |
| 47 ハシブトガラス | 8   | 9   | 13 | 5  | 1  | 13 | 6  | 1   | 1   | 1   | 11  | 13  |
| 冬鳥         |     |     |    |    |    |    |    |     |     |     |     |     |
| ドバト        | 10  | 5   | 0  | 0  | 3  | 2  | 0  | 0   | 0   | 30  | 1   | 12  |
| アヒルの仲間     | 0   | 0   | 7  | 5  | 0  | 6  | 0  | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   |

冬鳥

1/15  
(土)

## 第6回川の日ワークショップ関東大会

1月15日(土)に大宮ソニックシティで開催した「第6回 川の日ワークショップ関東大会」(事務局:NPO 法人あらかわ学会)へ参加してきました。このイベントは「いい川とは、いい水辺とは何か」を自由に柔軟に探るための市民団体や行政、企業等様々な立場の方たちが、自分たちの取り組みを発表して交流を深めることを目的としています。

今回は「志木ぶらり散歩 ～志木の崖線めぐり～」を発表したのですが、力が足りず残念ながら予選落ちでした。ただ、昨年発表した「志木の水防遺産」がグランプリだったお陰で、特別発表をする機会をいただいたので、これまでいった全国各地の川を紹介する「気ままにぶらり散歩 ～各地の川めぐり～」という発表をさせていただきました。

今回のグランプリは、前号のエコシティ志木通信で特集した埼玉南部漁業協同組合(南部漁協)の朝霞支部が発表した「市民参加による漁協の川づくり」でした。南部漁協朝霞支部は、参加者が投票する会場賞にも選ばれ、グランプリとともにダブル受賞となりました。

なお、南部漁協朝霞支部は、1月29日(土)に埼玉会館で開催した「川の再生交流会 ～広げよう川の守り人～」(主催:埼玉県)の第一分科会「地域づくり、まちづくり、流域での取組」でも、市民参加による漁協の川づくりの事例紹介がされました。

(伊藤智明)



表彰を受ける南部漁協小林朝霞支部長



『水塚の文化誌 志木市宗岡 荒川下流域の水とくらす知恵』

(編集: 志木まるごと博物館河童のつづら)

3月発行です!

2009年度から2か年かけておこなった水塚調査の報告書『水塚の文化誌』がいよいよ3月6日に完成します。

宗岡にある水塚をはじめとした治水遺構は地域の歴史を伝えるとともに、地域の自然環境も豊かにする「お宝」です。そんな情報がいっぱい詰まった報告書、後日、会員の皆さまにお送りいたします。お楽しみに!!

〈この事業は生活協同組合ドゥコープ(2009年度)とサイサン環境保全基金(2010年度)から助成を受けて行いました〉



1/16  
(日)

## やってみよう湧水モニター講座 in 埼玉県富士見市

1月16日（日）に富士見市で開催した「やってみよう湧水モニター講座」（主催：新河岸川水系水環境連絡会）へ参加してきました。この講座は、新河岸川流域の水循環の健全な状態にするためには、継続的に川の水質や水の流れ、生き物、流域の緑などを見守っていくための水循環市民モニターを養成することを目的としています。これまで湧水だけでなく、水質や水生生物などの講座も行っています。

環境省「湧水保全・復活ガイドライン」の作成に関わられた中村 裕昭 氏（地域環境研究所）を講師に、今回は石井緑地公園（どんぐり山）の湧水をフィールドに、バケツを使った容器計量法、浮標（簡便法）による水路流速断面計測法、堰板のみ（簡便法）による三角堰法と3種類の水量調査方法を体験しました。また、すぐ近くにある性蓮寺とお井戸の湧水を見学しました。



水量調査体験の様子

いろは親水公園の湧水には三角堰もあるそうで、天田さんからは、以前エコシティ志木で行っていた湧水調査結果の紹介がありました。

（伊藤智明）

2/20  
(日)

## 新河岸川流域の水草 ～その生態と保護～

2月20日（日）に朝霞市で開催した「新河岸川流域の水草 ～その生態と保護～」（主催：新河岸川水系水環境連絡会）へ参加してきました。上記と同じ水循環市民モニター養成のための講座ですが、これまで気になっているけど、あまり調べられていない水草をテーマにした初めての試み

でした。

そこで、水草に詳しい須藤 悠太 氏（（財）埼玉県生態系保護協会 研究員）を講師に、水草の全体概要、新河岸川流域で見られる種類、ハビタット（生息環境）としての水草、水草から見た河川工事、トピックス（外来種問題、水質浄化機能、絶滅の危機 等）など幅広い視点からの講義をしていただいた後、ヤナギモ・オオカナダモ・オオフサモ・オオカナダモ・オオカワヂシャ・ウチワゼニグサ・ヤナギタデ・ウキゴケなど、参加者が持参した水草の同定や見分け方の解説をしていただきました。

水草の世界でも危機的な在来種の減少と外来種の増大には、一同驚き生態系・生物多様性の大切さを再認識しました。

（伊藤智明）



当日持参された水草

# 新河岸川流域の水防施設

NPO法人エコシティ志木代表理事 天田眞



新河岸川の河床掘削

## 新河岸川流域の都市型水害

新河岸川流域は典型的な都市型洪水を起こす地域です。高度成長期以後に急激に都市化が進行し、農地や緑地が市街地となり、地面に浸透しなくなった雨水は急激に低地に下り、川へ流れ込むようになりました。低地は遊水機能を持つ水田等利用されていましたが、そこに人が住むようになり、新たな水害被害者となりました。

新河岸川や柳瀬川沿いの低地では土地が堤防より低いので川の水位が高くなるとポンプにより排水することになります。近年の水害は、雨水が急激に低地に集中するため排水が間に合わない内水氾濫型が中心で、堤防が決壊するような水害はありませんが、十数年前までは川の水が堤防から越水する水害がありました。

## 総合治水対策の考え方

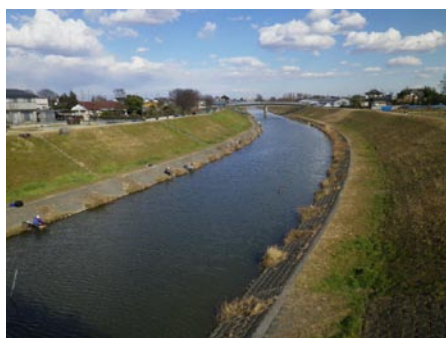
都市型河川では、河川そのものの整備だけでは洪

水に対処できないため、流域全体の保水機能の維持を図ることや、水防体制や住民への広報等のソフト対策をふくめた「総合治水対策」といった考えが治水の基本になりました。

河川整備としては、河道断面を拡大し流下能力を向上させる。河川の洪水流を余裕のある他の河川や流域外へ放流する。河川の洪水流を一時的に調節池に貯留する等の方策がとられています。流域対策としては雨水貯留浸透施設の設置により雨水が急激に河川へ流出するのを抑制する。緑地・農地の保全、盛土の抑制等の土地利用の適正化を図ること等があります。



新河岸川の築堤工事



新河岸川放水路



朝霞調節池の越流堤部分



## 新河岸川流域の水防施設

新河岸川流域では次のような水防施設の整備が行われています。

### ●新河岸川の河道整備

1980年代以降、河道断面拡大のための堤防の移動やかさ上げの工事が始まり、上流の川越線橋梁付近から下流の白子川合流点まで、一部を残してほぼ終了しています。また、志木地域など一部の区間では川底に堆積した土砂の掘削も行っています。

### ●洪水時に新河岸川の水を荒川に放流する施設

#### (1) 新河岸川放水路と南畑排水機場

新河岸川の洪水を新たに開削した新河岸川放水路と荒川の旧河道であるびん沼川を経由し、富士見市の南畑排水機場で荒川に放流する施設。1986年（昭和61）完成。

#### (2) 朝霞水門

朝霞市下内間木の新河岸川と荒川の旧合流点近くに設けられた水門で、一般的に洪水時の最高水位に達する時間が新河岸川より荒川が遅いことを利用し、新河岸川の水位が荒川より高い時にゲートを開き放流し、荒川の水位が上がってきたらゲートを閉じ逆流を防ぐ施設。将来は排水機場を設ける計画もあります。1995年（平成7）完成。

### ●新河岸川流域の主な大規模調節池

河川に隣接して設け、河川との間の堤防の一部を低くして（越流堤）、洪水時に川の水を溢れさせ貯留する施設。

**寺尾調節池**（新河岸川）：36万 $\text{m}^3$ 、2002年（平成14）完成、川越市

**朝霞調節池**（新河岸川）：137万 $\text{m}^3$ 、2004年（平成16）完成、朝霞市

**びん沼調節池**（びん沼川）：170万 $\text{m}^3$ 、2003年（平



南畑排水機場



朝霞水門

成15）完成、富士見市等

**蛇島調節池**（砂川）：18万 $\text{m}^3$ 、2000年（平成12）完成、富士見市

### 志木市内の水防施設

●**排水機場**：志木では川に面した土地のほとんどが堤防より低くなっており、大雨の時には排水はポンプに頼らざるを得ず、市内には十数か所のポンプ施設があります。

●**雨水流出抑制施設**：川へ流出する水量を抑制するため、市民体育館地下にある大規模な調整池を始めとして大小多数の調整池があります。珍しいものとして、下宗岡地区には荒川の秋が瀬取水堰から朝霞浄水場へ水を送る為に造られ、老朽化のため現在は使われていない旧朝霞水路の暗渠を調整池として利用しています。また、台地にある幸町の区画整理地区では、宅地や道路の雨水排水施設に浸透型の雨水枿やトレンチを用いています。

●**圧力管による排水施設**：朝霞市との境界の谷津地地区（本町2・3丁目）は狭い谷間型の地形になっており、ここに広い範囲の高台の水が集中するため、大雨の時にポンプをフル稼働しても排水しきれず内水氾濫をおこしやすくなっていました。そこで、高台の水と低地の水を別の系統に分離し、高台からの雨水管やマンホールを密閉型（圧力管）にすることで、低地に水があふれないように改修しています。2007年度（平成19）完成。



郷土排水機場



志木市民体育館調整池



旧朝霞水路調整池の流入口

# 金子秀樹の 農業日記 < 9 >

今回は、1月30日に行われました「野焼き」について書いていきたいと思います。

野焼きは、実際に野焼き作業をする農家、傷害保険・広報関係の農協、延焼対策として消防署（実際に消防車が出動します）が連携して行われます。野焼きに使われる道具としては、灯油バーナー、ガスバーナー、自転車等のチューブ、棒に古着を巻き灯油を染込まれ燃焼道具を各自が持ち寄ります。

灯油バーナーは、灯油タンカー体型及び分離型があり、灯油容量により燃焼時間（30分以上）が異なります。灯油バーナーは、灯油を加圧・気化させて燃焼させますので着火性（バーナー部を加熱させる必要がある為、着火に数分を要します）が劣りますが、燃焼時間・火力（燃焼温度が1000℃程度になります）が強いため多くの農家が使っています。また、重量もあるので男性陣が使用します。我が家も灯油タンカー体型の灯油バーナーを使用しています。

ガスバーナーは、卓上コンロ型のガスボンベを利用したバーナーで、軽量で着火性が良い為、最近よく使われます。主に女性陣が使用しています。欠点としては、ガスボンベを使用するため燃焼時間（10分程度）が短いことです。その為、使用される人は、ボンベを2～3本用意して参加されています。火力は、灯油バーナーと同等です。チューブ及び棒に古着を巻き灯油を染込まれ燃焼道具は、昔から使用されていました。

チューブは、一箇所を切り、片側に火を点け、チューブを枯れ草の中を沿わせるようにして枯れ草に火を点けていきます。主に農道沿いなどの比較的細長い所を焼くのに適しています。

古着を巻き灯油を染込まれ燃焼道具は、比較的低い枯れ草が密集している所に使用されています。

野焼きをするときは、必ず風上から行います。ただし野焼き中に風向きが変わることがあるので、常に風向き、炎の大きさ・勢いを見ながら行います。

服装ですが、主に燃えにくい綿製品の服を着て行います。私は、防風用のビニールジャンパーの



野焼き後

上に着古した綿のトレーナーを着て参加しています。

参加される人は、手馴れていますので野焼き作業としては、30分程度で主な所は、焼き尽くされます。後は、自分の田んぼ周辺を焼いて終了します。

野焼きが終わると、今年も稲作が始まるのを実感します。



灯油バーナー



野焼き作業



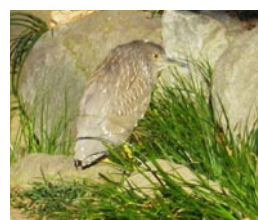
野焼き前



## 《鳥類》

モズのはやにえ→ 12/19 (日) 水谷たんば、柳瀬川ウォッチングで [山崎光久]

ゴイサギ (幼鳥 1) → 1/20 (木) 西原ふれあい第三公園の水路際でサリガニを捕ろうとじっと見ていたが近づいたら斜面林に飛んでいった。羽根のくさび型の模様がとてもきれい [天田いづみ]



ゴイサギ (1/20) [天田いづみ]

## 《魚類》

カマツカ (85mm) → 1/16 (日) 柳瀬川ウォッチングにて [伊藤智明]

## 《昆虫》

コガタスズメバチの巣 (30cm × 20cm) → 1/8 (土) 西原ふれあい第三公園のコクサギの木に [天田眞]

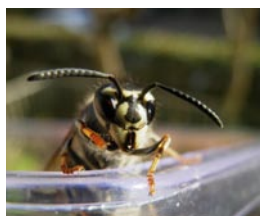


カマツカ (1/16) [伊藤]

クロスズメバチ (越冬中の次期女王バチ) → 1/12 (水) 家庭菜園で収穫した野菜にまぎれていた [天田眞]

## 《植物》

オオカワヂシャ → 1/16 (日) 柳瀬川ウォッチングにて (特定外来生物) 水中 (沈水) のため葉が丸い [伊藤智明]



クロスズメバチ (1/12) [天田眞]



コガタスズメバチの巣 (1/8) [天田眞]



オオカワヂシャ (1/16) [伊藤]

## 環境

## ひとくちメモ (19)

伊藤 智明

## 「国際森林年」

今年 (2011 年) は、世界中の森林の持続可能な経営保全の重要性に対する認識を高めることを目的として、2006 年の国連総会決議で定められた国際森林年 (the International Year of Forests) です。(前回の国際森林年は 1985 年)

農林水産省は、国内テーマを以下のようにしました。このテーマには、「国民の皆さんに、森林への理解を深める入り口としていただくとともに、暮らしの中に森林や木材を取り入れていただけるように」との期待が込められているそうです。

### 【国内テーマ】

「森を歩く」

詳細は以下のホームページをご覧ください。

林野庁「2011 国際森林年」<http://www.rinya.maff.go.jp/j/kaigai/2011iyf.html>

～未来に向かって日本の森を活かそう～  
～森林・林業再生元年～

昨年の国際生物多様性年のように、今年は森林に関わる様々な話題が取り上げられると思いますので、少しでも関心を持っていただけたらと思います。

▶ 国際森林年は、国連のもとで行われる活動。



林野庁「参考資料：国際森林年のねらい」より

## ☆会員状況

2010 年度更新済み会員 (2/24 現在)

個人正会員 54

団体正会員 2

賛助会員 3

\*会員の長谷川久江様より寄附金をいただきました

★本会の財政基盤は、会員の方の年会費が頼りです。

★今年度も継続更新をよろしくお願いいたします。

★宛名シールに会費の有効期間が書いてありますので、チェックしてください。



### ■当会の団体正会員

志木おやこ劇場

生活クラブ生協志木支部

### ■当会の団体賛助会員

慶應義塾志木高等学校

志木柳瀬川ロータリークラブ

### ■当会が参加している、または主な協力団体

志木おやこ劇場

いろは遊学館利用者の会

志木市コミュニティ協議会

柳瀬川流域ネットワーク

新河岸川水系水環境連絡会

新河岸川広域景観づくり連絡会

埼玉県南西部地域NPO連絡会

(財) 埼玉県生態系保護協会志木支部

市内小中学校

志木市立教育サポートセンター

志木のまち案内人の会

グループぼんぼこ

新河岸川流域川づくり連絡会

情報満載！  
当会のホームページ

公式ホームページ

(準備中です)

志木まると博物館「河童のつづら」

<http://kappa-no.net/>

## お知らせ

### 寄付をいただきました 埼玉県 NPO 基金団体希望寄附金制度

市内在住の安藤修様より埼玉県 NPO 基金「団体希望寄附金制度」に、当会を希望して寄附をいただきました。

この寄附金については、来年度に事業企画を立て、NPO 基金の「みんなでサポート事業」に応募し、基金からの助成金として活用させていただく予定です。



### 5 月 16 日 (日) 平成 23 年度定期総会を開催します

5 月 16 日 (日) に平成 23 年度定期総会を開催する予定です。

当会の活動は、環境保全をはじめ非常に多岐にわたっていますが、スタッフ不足が悩みです。皆さまの知恵やお力をお待ちしています。



ハチの仲間は実に種類が多く、その生態も様々で大変興味をひかれるものがあります。その中には、他の虫に卵をうみつけ、その体内に寄生した状態で成長する寄生バチ(ヤドリバチ)の仲間が多数います。今回取り上げるのは寄生バチの中でもチョウやガの幼虫に寄生するコマユバチの仲間です。

私は野菜づくりをしていますが、秋のブロッコリーやキャベツにはモンシロチョウのアオムシが大量に発生します。虫食いだらけの葉っぱに、長さ4mm 幅1mm 位の黄色い粒が数十個固まってついていることがあります。これはアオムシに寄生したコマユバチがつくった繭です。成虫は体長3mm 程の小さなハチの仲間、アオムシの体内にたくさんの卵を産み付

け、生まれた幼虫はアオムシを殺さないように体内を食べて成長します。一斉に皮膚を破って脱出し繭をつくりますが、アオムシはこの時点で死んでしまいます【1,2】。コマユバチはかなりの確率で寄生していて、アオムシを捕まえて飼育してみると簡単に生態観察ができます。

コマユバチの仲間には、もっと大きなケムシやイモムシに寄生する種もあり【3,4】、サクラにつく大きなモモスズメの幼虫から200匹以上が出てきたこともあり【5】。このスズメガに寄生する種は1匹の大きさはアオムシにつくものと同じですが、真っ白な繭の集合は直径2～3cm位の脱脂綿の塊のようになります【6,7】。一方、1匹のケムシやイモムシに1匹ずつ寄生する種もあります【8,9】



【1】モンシロチョウから出てきたコマユバチが繭(黄色)をつくっている



【2】モンシロチョウに寄生したコマユバチの羽化直後の成虫(体長3mm)



【3】オオミズアオに寄生したコマユバチの繭(白色)



【4】マイマイガに寄生したコマユバチの繭(白色)



【5】モモスズメから200匹以上のコマユバチが一斉に出てきたところ



【6】モモスズメに寄生したコマユバチの繭の塊と成虫



【7】モモスズメに寄生したコマユバチの成虫(体長3mm)



【8】ヒメクロイラガに1匹ずつ寄生するコマユバチ



【9】ブドウスズメに1匹ずつ寄生するコマユバチ

## シジュウカラ



シジュウカラは都会の中のちょっとした緑陰でもみかける、スズメほどの大きさの野鳥です。2月初旬頃から繁殖期になり「ツツピーツ、ツツピーツ」と澄んださえずりが聞けます。

ところで、1月11日付の朝日新聞に、シジュウカラの親鳥が、天敵のカラスとヘビに対する警戒の鳴き声を使い分けているという、立教大学院生・鈴木俊貴さんの研究報告が紹介されていました。

シジュウカラはふつう、樹木などにあいた穴に巣を作ります。その記事によると、巣の入り口からくちばしを突っ込んで雛をつまみ出すカラスに対しては、親は「チカチカ」という鋭い声を発し、雛は一斉にくちばしが届かない巣の底に引っ込みうずくまるそうです。また、巣の中に入り込んで雛を丸飲みにするヘビに対しては、親は「ジャジャ」という濁った声を発し、それを聞いた雛は巣の外に飛び出すということが分かったそうです。

これにより雛はどちらの天敵に対しても最適の防衛策をとれるというのです。

都会の中では、シジュウカラが繁殖できるような木が少なくなっています。ブロック塀の穴や、鉄パイプの穴を利用するシジュウカラを見たこともあります。そんなシジュウカラですので、巣箱もよく利用します。

巣箱を利用する鳥は、自然界では木のうろや石垣の隙間などに巣を作る習性をもった鳥です。シジュウカラの他にもスズメやムクドリ、セキレイの仲間、フクロウや、ほ乳類のコウモリも巣箱を利用します。

シジュウカラ用の巣箱は市販もされていますが、ノコギリなどが使えれば自分でもかんたんに作れます。インターネットなどでも作り方が紹介されています。

シジュウカラにきて欲しければ、巣箱の大きさや巣の穴などを適正なサイズにしなければなりません。とくに巣穴の大きさは大切で、直径2.6～2.8cmにします。それ以上大きいと、スズメやムクドリに横取りされてしまいます。

また、巣をかける場所は、地面から2～5mの高さで、巣箱の近くに枝や他の木で隠されない見通しの良い場所を選びましょう。校庭や近くの公園の木に設置してやると間近でシジュウカラの子育てが観察できるかもしれません。そして、初夏の頃、繁り始めたみずみずしい緑の中で、枝から枝に移動するシジュウカラのファミリーに出会えることでしょう。

### 編集後記

◇昨年末から2月にかけて『水塚の文化誌』の編集であたふたしましたが、お陰様でやっと完了し、もう少しで皆さまのお手元に届きます。

◇そのせい、というわけばかりでもないですが最近ホームページやブログなどの更新が滞っています。皆さんのお力をお待ちしています！！  
(ふくろう)

### エコシティ志木通信

第61号 2011年3月1日

〈発行〉

**NPO法人 エコシティ志木**

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

電話/FAX 048-471-1338 (天田眞)

URL <http://kappa-no.net/>

E-mail [eco-shiki@ff.e-mansion.com](mailto:eco-shiki@ff.e-mansion.com)